

2025 年 1 月

2024 年度 共同指導科目 授業アンケートでの要望事項への回答
「環境・エネルギー学演習 B／実習 B」

授業アンケート Q10「総合的にみてこの授業は有意義であった」への評価が 5.68(6 点満点、以下同じ)であり、授業目標は達成されたと考えている。

なお、本講義は 2025 年度から、講義の特色であるグループワーク中心の講義スタイルは維持しつつ、ディプロマポリシーに掲げる「環境・エネルギー問題の解決に向け、工学あるいは社会・人文科学的な解析・設計手法を駆使し、学問領域統合型アプローチによる実践的・戦略的な活動ができる能力」の習得により直接的に資する授業内容に変更した初年度の実施であった。授業アンケートにおける意見は授業設計・運営において非常に大切なものであることから、特に、授業アンケートにおいて本授業への要望事項として述べられたことの中から回答・コメントが必要であるものについて、以下に抜粋して、回答・コメントをおこなう。

「この授業でもっとも有意義な点」として、「自分だけではない客観的なクラスメートからの多角的な視点のコメント、スモールクエスチョン、マンダラート、分析手法などの物理的なテクニックこの授業を通じて、自分はテーマを決めることから発表までの流れを経て、非常に勉強になった。」「分野が違う人と議論して、思わなかった視点から自分の研究を考えることが出来ます」「演習 A と表裏一体の授業内容で、相互補完の内容でした。同時期に行うことで理解が深まりました。」等のコメントがあり、全体を通じてこの授業が狙いとして十分に達せられたと考えている。

本講義の大きな狙いとして、実践的に自身の研究方針を立てること(リサーチクエスションの明確化等)を企図していたが、そのことについても有意義な点として「リサーチクエスションの明確化、stata の勉強、問いの設定」「自分の研究の社会的意義を理解した」「色々な角度から自身の研究をみること」等のコメントがあり、研究に取り組む初期段階で必要なことがらについて適切に理解されたと考えている。一方、より講義の質を高めるための意見として「演習 B は演習 A に先んじて実施すると良い」「アンケートの現地実習があると面白そう」等もあり、今後の授業設計・運営において建設的な意見であると捉えた。

最後に、グループワークに関する肯定的な意見が多かったことを付記するが、一方で固定的なグループでは無く、他のグループメンバーとも多くのディスカッションをしてみたかった、という意見もあり、今後の授業運営における参考としたい。

以上